

株式会社 コンパッション

【本社】
東京都江戸川区江戸川 2-3-13
【市川営業所】
千葉県市川市北方町 4-1834-19



地域や社会への貢献を果たす 運送業と今後挑戦する新事業で

東京・千葉の二拠点を軸にして、企業配送を中心とした運送業を手掛けている『コンパッション』。長く運送業界で経験を積んできた塩田社長と鈴木部長が二人で始めた同社は、着実に成長を続け、今後さらなる事業展開も見据えているという。竹原慎二氏が二人にインタビューを行った。

—塩田社長はこれまでずっと運送業界でお仕事をされてきたのですか。
(塩) いえ、学業修了後はシステムエンジニアとして働いていました。ただ、入った会社がいわゆるブラック企業だったこともあり、短期間で退職し、次に入ったのが運送会社だったんですよ。やってみると、運送業が私の性に合っていました。—システムエンジニアからの転身とは、意外なご経歴です。運送業のどの辺りに魅力を感じられたのでしょうか。
(塩) 単純にデスクワークより、身体を動かす仕事に私に向いていたというのが一つ。あとは何より、運送業は人の役に立てる仕事だということです。我々が物を運ぶことで、助かる人がいます。震災時にも物を運んだ経験がありますが、本当に喜んでもらえて、「この仕事をやっていて良かった」と心から思いましたね。



ゲスト 竹原 慎二

—物流は本当に多くの人を支えられていますよね。御社は2019年設立ということで、会社勤めは長かったのですか。
(塩) そうですね。運送会社2社で、計17年ほど勤めました。その中で運送に関わる仕事は一通り経験し、前勤務先では課長職も務めましたね。そして2018年、鈴木部長と二人で、まずは個人事業として運送業をスタートしたんです。—部長は、以前から社長とお知り合いだったのでしょうか。
(鈴) ええ。勤める会社こそ違いましたが、私も長年ドライバーの仕事をしてきました。その中で社長と知り合い、同い年なこともあって意気投合したんです。
(塩) 起業にあたっては、1年ほどを掛けて部長を口説き落としました(笑)。部長は運送業のことなら何でもできる、非常に優秀な人材なんです。もちろんドライバーとして現場にも出られますし、お客様とお話もできて、後輩の指導も上手い。起業するなら絶対に部長が必要だと思っていました。実際に起業してからも部長が当社の礎を築いてくれたので、本当に私にとって大きな存在ですね。—頼れる右腕がいるのは心強いですよね。お仕事はどのように確保されていますか。
(塩) 勤務時代からお付き合いがあったお客様が、そのまま私についてきて下さいました。そこから人の輪が広がり、今は多くのお仕事を任せていただいていますね。当社は企業配送がメインで、現在はパソコンやサーバー、医療機器、ゲームの筐体などを運んでいます。—社員さんは現在何名なのですか。
(塩) 私含めて6名、トラックは9台あります。今は人手が足りず、私も毎日現

“compassion”の精神

■社名に掲げる「compassion」は、「思いやり」を意味する英単語だ。この他に「sympathy」や「empathy」も同様の意味を持つと言われている。ただし異なるのは、sympathyやempathyが相手に「同情」や「共感」をする一方で、compassionは「相手を救いたいと強く思い、そのために何が出来るかを考える」という点。ただ相手の気持ちに寄り添うのではなく、相手のために自分が何かをするというところに、compassionならではの意味合いがある。

■これはまさに、塩田社長のお客様や社会に対する想いを表した言葉だ。社長は『コンパッション』の経営理念にも「思いやりを持って行動する」を掲げている。運送業においても、お客様のために何が出来るかを考え、行動してきた。そして社会に対しても、ただ「こうなってほしい」と願うのではなく、そうできるように自ら行動を起こそうとしている。compassionの精神が社長の根幹にはあるのだ。

■「思いやりを持って行動する」——そんな理念は、頼れる社員の方々とも共有するところ。これからも全員で丸となり、“人の役に立つ仕事”に尽力していく。



代表取締役 塩田 政人

場に出ていますね。やはり運送業界は過酷な面もあって、昨今はなかなか人が集まりません。そんな中でも、今いる社員は人間的にも仕事の面でも良い人ばかりで、みんな仲も良く、私は人に恵まれていると感じます。お客様も含めた“人”が、経営では一番大事。これからも社員を大事にして、共に歩んでいきたいです。—そうしてくれる社長のもとでなら、皆さんも働きがいがあるでしょう。部長から見て、社長はどんな方ですか。
(鈴) とにかく頼りがいのある人ですね。我々が何かに挑戦して失敗したとしても、必ずかばってくれますし、フォローしてくれます。だから安心して何でも挑戦できるんです。今は社員全員がいきいきと仕事をしていますよ。—良い関係性が築けているようです。今回のコロナ禍は影響がありましたか。
(塩) かなりありましたね。ネット通販は変わらず動いていますが、当社はあくまで企業配送がメイン。企業はなかなか動いておらず、今がどん底というぐらい厳しい状況です。ただ、ここがどん底なら後は上がっていくのみですから、社員みんなと力を合わせ、ここからまた盛り返していきたいと思っています。—運送業界は同業他社さんも多いですが、御社の強みはどこにありますか。
(塩) 対応力には自信があります。運送業はただ運べばいいわけではなく、特に企業配送においては、お客様が抱える問題や課題をいかに解決するかが求められるんです。その点、当社には経験豊富なドライバーが揃っており、お客様の問題や課題を先回りして考え、解決へと導けるんです。また、当社では医療機器など

も配送しており、運ぶだけでなく現場での設置作業も担います。スキルやノウハウが求められる作業なので、そうしたところも含めた対応力が強みですね。—今後について、社長はどのようなビジョンを描かれているのでしょうか。
(塩) まずは当社を15~30名規模の会社に成長させたいです。また、私は1社だけで終わるつもりはなく、2社目、3社目と展開していきたいとも思っています。そうすることで、地域貢献や社会貢献を果たしていきたいんです。倉庫業などの関係する業種から始めて、将来的には福祉・介護などの異業種にも挑戦したい。部長は農業が好きなので、農業にも挑戦してみたいですね。
(鈴) 姉が農業の会社に勤めていて、その影響で私も家庭菜園をするようになりました。そうしたら思いの外楽しくて、将来農業をするのが私の夢なんです。—そうですか。これからは社員の方々の夢も、この会社で叶えていくと。
(塩) はい。社員にはたくさん挑戦して、たくさん失敗してもらいたいと思っています。カバーはいくらでもするので、自分のやりたいことに挑戦してほしいです



部長 鈴木 正芳

ね。また、人に優しく、人の役に立てるような人間になってほしいとも思っています。そして私自身の最終的な夢は、海外に会社を構えること。貧しい国に会社を作り、雇用を生み出したいんです。この夢もいつか実現したいですね。

(2020年12月取材)



「とにかく塩田社長は『世のため人のため』という意識の強い方でした。そんな社長の真っ直ぐな熱い想いに、鈴木部長をはじめ社員の皆さんも付いてこられているのではないかと感じました。その志と団結力で、今後どれだけ活躍の場を広げるのか楽しみにしております！」 竹原 慎二・談